

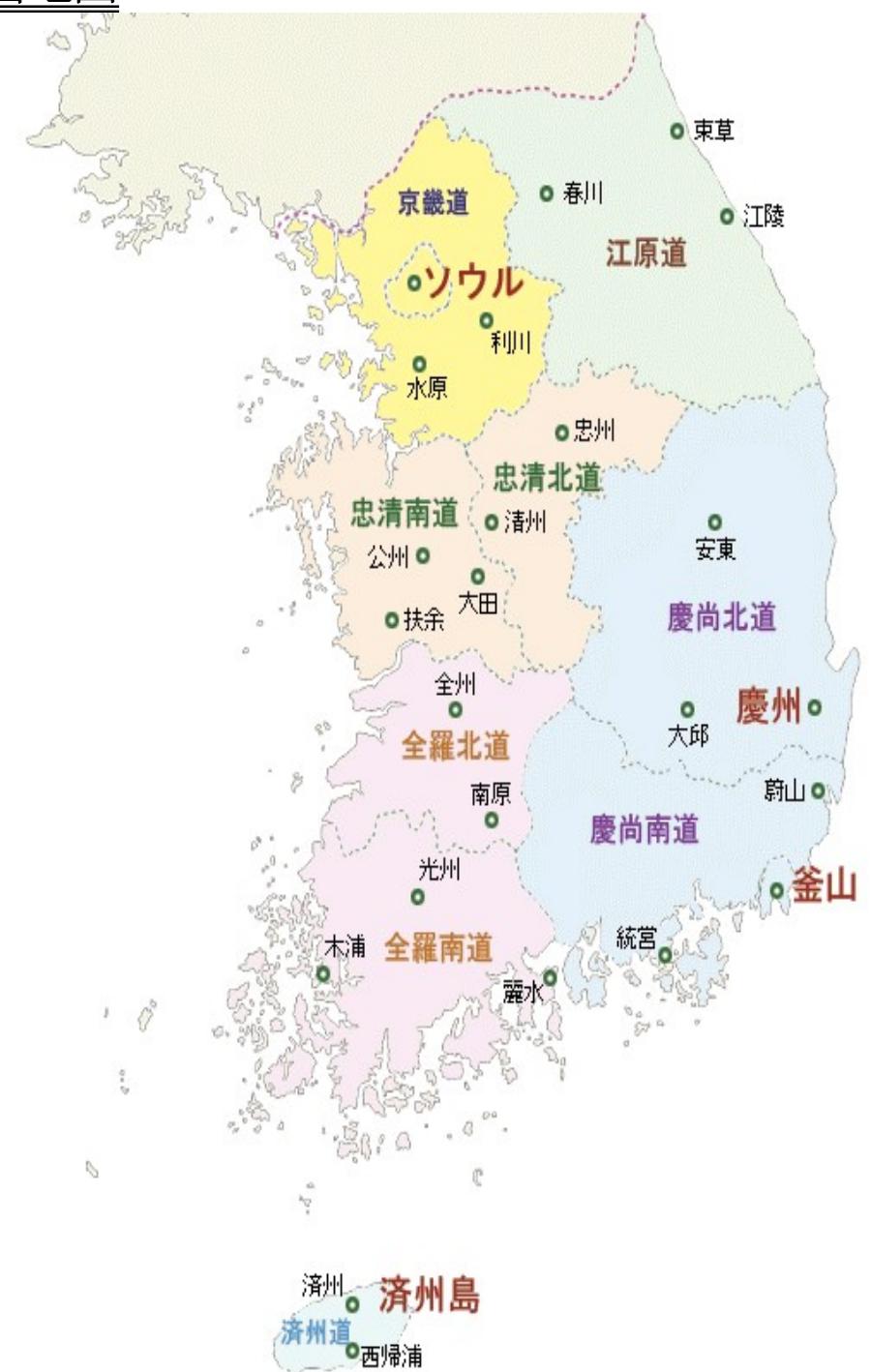
第32回 日・韓・中ジュニア交流競技会
=スポーツ庁国庫補助事業=

テニス競技 参加報告書



(公財) 全国高等学校体育連盟テニス専門部

韓国地図



慶尚北道



慶尚北道の紹介

人口：272万人 面積：19,029 km² (韓国面積の 19.1%)

日本との時差：なし

慶尚北道(キョンサンブクド)は、朝鮮半島の東南部に位置し、山地が多くて比較的高度が高く、北部と西部にある高くて厳しい小白山脈が洛東江流域の広大な平野をまるで屏風のように囲んでいるのが特徴的である。南方には雲門寺、琵瑟山などがあり、全体的に巨大な盆地の地形をしている。秀麗な自然景観、335kmに達する長い海岸線と清浄東海など多様な潜在力と開発需要を持ち、世界的な鉄鋼繊維産業の中心地として韓国の経済成長の牽引役を担ってきました。首都圏の次に多くの大学が所在し、豊富な研究人材と技術力を保有しています。また豊富な文化資源と天恵の観光資源、地域の高い文化的力量を基に、伝統と現代が交わる世界的な文化・観光中心地として今も発展しています。

引率者名簿（教職員 3名）

役割	氏名	ふりがな	所属または役職
総監督	黒岩 瞳雄	くろいわ むつお	全国高体連 部長
男子監督	佐藤 直樹	さとう なおき	東北地区常任委員
女子監督	兵藤 直樹	ひょうどう なおき	九州地区常任委員

参加選手名簿（男子 4名・女子 4名）

	氏名	ふりがな	所属
男子	西山 大樹	にしやま たいき	麗澤瑞浪高校
男子	上田 賴	うえだ らい	橘学苑高校
男子	吉田 珠	よしだ りん	法政大学第二高校
男子	中島 璃人	なかしま りと	岡山理大附属高校
女子	上野 梨咲	うえの りさ	山陽女学園高等部
女子	中島 莉良	なかしま りら	岡山学芸館高校
女子	稻場 らん	いなば らん	相生学院高校
女子	上田 結生	うえだ ゆい	大商学園高校

全日程 8/24～8/31

日本選手団 (テニス・バドミントン) 現地滞在先 (8/25～8/30)

<エイチアベニューホテル> (H Avenue Hotel)

住所：亀尾市山湖大路 29 ギル 13-19

13-19, Sanho-daero29-gil, Gumi-si, Gyeongsangbuk-do TEL : 054-716-2347

日本選手団 集合先 (前泊宿舎) (8/24)

アートホテル成田

〒286-0127 千葉県成田市小菅 700 TEL : 0476-32-1111

URL : <https://www.art-narita.com/>

<最寄駅と駅からのアクセス>

成田空港、ホテル京急 EX 成田前よりシャトルバス (無料) で約 30 分

ホテルまでのアクセス <https://www.art-narita.com/access/>

なお、JR 成田駅発でホテル独自のシャトルバス (無料) もあり

日本選手団 (247名／11競技)

競技	人数 役員・指導者	選手			合計
		男子	女子	小計	
陸上競技	3	11	11	22	25
サッカー	3		18	18	21
テニス	3	4	4	8	11
バレーボール	5	12	12	24	29
バスケットボール	5	12	12	24	29
ウェイトリフティング	5	8	8	16	21
ハンドボール	5	14	14	28	33
ソフトテニス	3	6	6	12	15
卓球	3	5	5	10	13
バドミントン	3	6	6	12	15
ラグビーフットボール	4	23		23	27
本部	8				8
合計	50	101	96	197	247

Competition Venues Map

종목별 경기장 위치도
(구미시 내)



全日程 (8月24日土曜日～8月31日土曜日)

日時	時刻	プログラム
前泊 (土)	17:00～17:30 17:45～18:45	前泊宿舎集合、支給物品受け取り 日本選手団結団式（アートホテル内会議室） 指導者ミーティング（アートホテル内会議室）
第1日 (日)	①②グループ別に行動し成田空港へ移動 12:00 14:15 17:00	朝食 ①6:30～7:30 ②7:30～8:30 ホテル出発 ①8:45 ②9:45 成田国際空港着 ①9:00 ②10:00、搭乗手続き 成田国際空港発 金海国際空港着、入国手続き 移動（2時間～2時間30分） ホテル着、チェックイン、夕食
第2日 (月)	07:00～ 08:20 10:00～12:00 12:40 16:00～17:10 17:10～19:00 20:00～21:00 21:00	朝食 ホテル発、会場に移動（8:50会場着） 練習 会場発（13:10ホテル着）、ホテル近くにて昼食 開会式（文化芸術会館大公演場） 選手団宿舎に移動、夕食 監督者会議（種目別宿舎） ミーティング（監督会議の内容伝達）
第3日 (火)	07:00～ 08:20 10:00～17:00 18:00～ 20:00	朝食 ホテル発、会場に移動（8:50会場着） 競技、昼食（会場にて弁当支給） 夕食（宿舎） ミーティング（試合の反省などを共有）
第4日 (水)	07:00～ 08:20 10:00～17:00 18:00～ 20:00	朝食 ホテル発、会場に移動（8:50会場着） 競技、昼食（会場にて弁当支給） 夕食（ホテル近くで食事） ミーティング（試合の反省などを共有）

第 5 日	8月29日 (木)	06:30	朝食
		07:20	ホテル発、会場に移動（7:50会場着）
		09:00～16:00	競技、昼食（会場にて弁当支給）
		17:00	夕食（宿舎）
		19:00～21:30	フレンドシップ交流（文化芸術会館大公演場）
		22:00	ミーティング（試合の反省などを共有）
第 6 日	8月30日 (金)	07:00～	朝食
		09:30～17:00	文化探訪(ロッテマート、農心、Samsung、モノづくり体験)
		11:30～13:30	昼食（宿舎）
		17:00～20:00	夕食（宿舎）
第 7 日	8月31日 (土)	06:00～08:00	朝食
			移動（2時間～2時間30分）
			金海国際空港着、搭乗手続き
		12:30	全海国際空港発
		14:45	成田国際空港着、入国手続き、到着後、順次解散

<競技日程>

8月26日（月）	8月27日（火）	8月28日（水）	8月29日（木）
練習 10:00～12:00 日・中 13:00～15:00 韓・慶	試合 10:00 韓国 vs 日本 中国 vs 慶尚	試合 10:00 日本 vs 中国 韓国 vs 慶尚	試合 09:30 韓国 vs 中国 日本 vs 慶尚

<対戦結果>

	日本 vs 韓国	日本 vs 慶尚北道	日本 vs 中国	勝敗	順位
男子	1 - 4	4 - 1	0 - 5	1勝2敗	3位
女子	1 - 4	5 - 0	2 - 3	1勝2敗	2位

ラウンドロビン方式では、完了試合数が順位決定で最優先となる。男子は慶尚北道チームにRetがあるため、自動的に慶尚北道チームが4位。女子は中国チームと慶尚北道チームにRetがあるため、それぞれ3位と4位となる。



男子 8月 27 日 (火)

日本	韓国	スコア (4-1)	勝者 (韓国)
西山 大樹	Kim Sehyun	64 64	Kim Sehyun
中島 璃人	Oh Hyeongtak	64 61	Oh Hyeongtak
吉田 琳	Hwang Hyowon	62 75	Hwang Hyowon
上田 賴	Kang Woojun	26 62 10-7	Kang Woojun
吉田 琳	Hwang Hyowon	46 75 10-5	吉田 琳
上田 賴	Oh hyeongtak		上田 賴

女子

日本	韓国	スコア (4-1)	勝者 (韓国)
中島 莉良	Choi Seoyun	76(5) 64	Choi Seoyun
上田 結生	Lee Dayeon	62 64	Lee Dayeon
上野 梨咲	Jeong Uisu	62 63	Jeong Uisu
稻場 らん	Eom Sebeen	61 64	Eom Sebeen
上田 結生	Lee Dayeon	64 46 10-6	上田 結生
稻場 らん	Jeong Uisu		稻場 らん

男子 8月 28 日 (水)

日本	中国	スコア (5-0)	勝者 (中国)
西山 大樹	Tang Jinpeng	62 62	Tang Jinpeng
中島 璃人	Kong Weiyi	60 61	Kong Weiyi
吉田 琳	Ye Xiuyuan	75 61	Ye Xiuyuan
上田 賴	Meng Fanming	62 61	Meng Fanming
西山 大樹	Tang Jinpeng	75 62	Tang Jinpeng
中島 璃人	Kong Weiyi		Kong Weiyi

女子

日本	中国	スコア (3-2)	勝者 (中国)
中島 莉良	Wei Zhangqian	63 63	Wei Zhangqian
上田 結生	Li Yuyao	75 76(4)	Li Yuyao
上野 梨咲	Zhang Ziye	62 60	Zhang Ziye
稻場 らん	Liang Hao	61 60	稻場 らん
中島 莉良	Wei Zhangqian	75 Ret.	中島 莉良
上野 梨咲	Li Yuyao		上野 梨咲



男子 8月 29 日 (木)

日本	慶尚北道	スコア (4-1)	勝者 (日本)
西山 大樹	Do Gyeom	75 64	西山 大樹
中島 璃人	Lee Jisung	61 63	Lee Jisung
吉田 琳	Lee Jaemin	64 63	吉田 琳
上田 賴	Seo JungHun	63 61	上田 賴
吉田 琳	Do Gyeom	41 Ret.	吉田 琳
上田 賴	Seo Junghun		上田 賴

女子

日本	慶尚北道	スコア (5-0)	勝者 (日本)
中島 莉良	Lee Hanbyeo1	61 63	中島 莉良
上田 結生	Kim Minkyeong	61 76(4)	上田 結生
上野 梨咲	Baeg Seeun	10 Ret.	上野 梨咲
稻場 らん	Park Yeeun	63 60	稻場 らん
中島 莉良	Lee Hanbyeo1	61 62	中島 莉良
上野 梨咲	Park Yeeun		上野 梨咲



試合方法：総当たり戦、5試合 (S-S-S-S-D) 3勝制（2面進行）打ち切りなし、

1試合3セットマッチ（ファイナル10ポイントタイブレーク）

会場：クンオテニス場 ハードコート（アクリル仕様）屋外11面、屋内4面

雨天時は屋内コートで対応（今回は2日目の途中から降雨のため1試合のみ使用）

各自の報告書にもあるが、ハードコートのためボールの弾み具合やスピードに慣れることに大変苦労をしていた。

Tel : 054-480-2281 (Geumo Tennis Stadium / 105, Sanchaek-gil, Gumi-si)

宿舎から10.4km、所要時間20分、テニス競技専用バス1台にて移動

使用球：HEAD CHAMPIONSHIP / メーカー：HEAD

(試合・練習球として男女チーム合計10ダース開催国が準備する)

実際は練習球として一人当たり2缶のみ配布された、事前の情報通りに要求したが追加は全部で4缶のみであった

審判：チェアアンパイア1名のみ、コミュニケーションは通訳を通じてになる

運営：前日の監督会議からレフェリーが参加し、事前説明も丁寧に行われた。競技方法などで特に変更はなく、詳細確認もスムーズであった。当日の大会運営も特に支障なく行われていた。

ストリングサービス：今回は大会会場にて対応していただけた。朝に渡すと、当日の帰りまでには仕上げてもらえた（1本につき約1,500円）。なお、ストリングについては各自で持参することが必須。

更衣室：男女各1室、シャワールーム：あり

更衣室のみ利用、あとはホテルにて対応

昼食：弁当（昼食用に冷房完備の部屋を用意していただいた）

飲料水・氷：飲料水は競技会場およびホテルにあり（利用制限なし）、清涼飲料水は会場に用意されており自由に確保できる、氷はアイシング用のみ。

通訳：男子・女子それぞれに1名ずつ、計2名配置される、なおプロの通訳ではなく、現地の有償ボランティアが対応。細やかな心配りでとても助かった。

今大会では韓国チームの選手がとても友好的で、ホテルでの食事をともにするなどの交流も散見された。ユニフォームの交換の提案もあり移動用のTシャツを交換した。ただ、最終日の文化探訪の時には同じウェア着用のほうが他の選手団との区別がつきやすいため、同じ色の移動用Tシャツは残しておいた。

支給物品について（ウエアなど配布物が多いため荷物の空きスペース必要）

＜チーム用交換記念品＞

ペナント（各競技男女各2~4枚）

各団体戦挨拶の時に交換、残れば通訳の方やバスの運転手さんにプレゼント

テニスの日チャーム（テニス専門部が用意 10個×3チーム=30個+α）

＜個人支給物品＞

日本選手団共通ユニフォーム（日本と韓国の移動、交流会で着用など団体行動の際着用）

ウォームアップウエア上下・ハーフパンツ・ポロシャツ（各自1セット）

以下の場面では必ず着用のこと

成田空港⇒金海空港間の移動時（25日と31日）

開会式（26日）、フレンドシップ交流（29日）

試合用ユニフォーム（ゲームウエア3着・ハーフパンツ3着支給）

移動用（ホテルと会場間の移動、練習）（Tシャツ3着支給）

日本選手団ハンドブック（一人1冊）

Sports for All フェイスタオル（対戦選手との交換用として一人3枚）

宿泊について

選手（男女ともに2人部屋） 監督（シングル）

アメニティー・・・バスタオル、フェイスタオル、レンジ、ドライヤー、石鹼、
シャンプー、コンディショナー

※歯ブラシは用意されていないので、各自持参してください。

浴室：ユニットバスまたはシャワー

コンセント：220V（プラグタイプ：Cタイプ、SEタイプ）

必要に応じ変圧器は各自ご準備ください

コインランドリー：近隣5分（洗剤は各自持参）、コンビニ：館外徒歩1分

外貨両替：不可（出発日もしくは事前に日本国内にて、両替した方がよい）

出国手続き後に成田空港内で両替も可能

ホテル内のサービスなど

ルームクリーニングの頻度：毎日

食事は朝夕ホテル（ビュッフェスタイル）、昼（弁当）、飲料水はホテルで支給、

飲料に利用できる氷はなし、アイシング用の氷はあり

Wi-Fi：各部屋で利用可（無料、パスワードなし）、監督3人はレンタルのWi-Fi（写真などを送受信するため1日の使用量制限なしで契約すること）を事前に借りておくことを勧めます。

その他：日本・韓国・中国選手団は同じ宿舎となります。

ホテル周辺状況 <売店等> 近隣にコンビニエンスストア徒歩1分内に2軒あり

ケガ・病気の対応について

捻挫や腰痛、筋肉痛の緩和のため、塗り薬・湿布薬など持参する用が良い
胃腸薬・下痢止め、総合感冒薬（市販）もあれば安心

＜競技会場＞

①現場の指示に従い病院へ（指導者、通訳帯同）

※パスポートを必ず持参してください！

②本部役員へ連絡（LINEグループを使用）

＜宿舎＞

①本部役員へ連絡（LINEグループを使用）※必要に応じて韓国側へ連絡します

②ホテル・韓国側の対応に基づき病院へ移動（指導者、通訳が帯同）

※パスポートを必ず持参してください！

＜病院＞

①容態・診断内容・投薬名などを必ず確認・記録してください。

※帰国後の継続治療にあたり、必要となる場合があります。

②治療費については、本人支払いまたは指導者が立て替える。

※必ず、診断・治療を受けた本人名の診断書・領収書を受け取ってください。

※本人が乗ったタクシー代も補償対象となりますので領収書を受け取ってください。
発行不可の場合は配付する指定様式に記入してもらってください。

③傷害事故報告書（代表者に配付）に必要項目を記入し、本部役員へ提出してください。

＜保険金の請求（帰国後）＞

①保険会社より、保険金請求書類を送付（診断・治療を受けた本人宛）

※必要事項を記入の上、保険会社へ送付 <送付先：三井住友海上火災保険㈱>

※立替者は振込口座を保険金請求書類に記入してください。

②審査終了後、保険会社より保険金の支払い

・本交流参加に伴う怪我の治療にかかる補償対象期間は、発生日を含めて180日以内

・本交流期間中に発症した病気の治療にかかる補償対象期間は、治療を開始した日から180日以内となります。

なお、病気の治療については、帰国後72時間以内に医師の治療が開始された場合までが保険の対象となります。

＜加入期間＞

2024年8月24日（土）～8月31日（土）※前泊日も含まれます。

補償内容補償額

傷害死亡・後遺障害 2,000万円 傷害治療 300万円

疾病治療 50万円 賠償責任 500万円

【交流競技会中の出来事など、次回への引き継ぎ事項】

8月 24日（土）

テニス指導者および選手ミーティングの主な内容

- ・日本代表としての自覚を促す
- ・日韓の移動および公式行事は日本スポーツ協会支給のウェア着用を伝達
- ・移動に関する情報伝達
- ・貴重品の管理徹底

8月 25日（日）

移動に関しては特に問題なし。なお、選手及び関係者総勢 300 人の移動となるため、出国手続きまでは集団行動日本スポーツ協会担当の指示に従う。出国手続き完了後は出発ロビーでの時間が十分あつたため、両替や軽食などの時間が取れた。韓国到着後は開催地の歓迎、通訳の方々の誘導もスムースで場雨情社まで特に不便を感じることはなかった。ただ、2 競技が大型バス 1 台で移動したため荷物が通路や座席に溢れる状態での移動となった。

ホテル到着後は周辺を散策しコンビニエンスストアやスーパーマーケットを見つめ、食料や飲み物には心配がないことがわかり安心した



8月 26日（月）

公式練習日（午前中）。12 時まで会場にて練習、各選手ともボールの速度および弾み具合に困惑、それぞれの調整能力は高いがそれでもこのコートに慣れるに苦慮していた。昼食は近くの食堂にて外食、それぞれのリフレッシュとなつた。

開会式では、歓迎の演武の後、歓迎の挨拶や参加国およびチーム代表の挨拶がとても多く、式典の時間を大半となっていることは少し残念である。

監督会議では SSSD の 5 ポイント制など試合方式の確認、ベンチコーチの役割（アドバイスのタイミング）などの共通認識を深めた。

8月 27日（火）

交流戦初日（対韓国）。事前打ち合わせ通り、特に試合に関しての問題もなく順調に進行する。序盤は韓国選手のパワーとスピードニア压倒されるが、各自の対応力の高さから途中からは互角に渡り合えた。しかしながら前半のリードを覆すまでには至らず、スコア以上に惜敗した。

8月 28日（水）

交流戦 2 日目（対中国）。例年体格の良く、運動能力も高い選手を揃えてくるが、今年に関してはそこまでの様子ではなかった。しかしながら、試合が始まると安定した試合運びで男子は圧倒された。女子は接戦にもつれ込んだが最後のポイントは中国に握られ善戦で終わった。



8月29日（木）

交流戦最終日（対慶尚北道）。開催地チームとの対戦であったが、選手のレベルも高く一方的とはいかなかったが、優位に試合を進め勝利を収めた。

8月30日（金）

終日韓国文化探訪。特にはなし。

8月31日（土）

最終日。特にはなし。

台風に関する影響について

8月末に日本に台風上陸の情報が大会期間中に飛び込んでくる。事前に検討する課題として、

①帰国日に飛行機が離陸および着陸可能なのか

離陸できない場合は、日本スポーツ協会の指示に従う。ただし、全日本ジュニアに関しての対応を日本テニス協会と密に連絡を取り合う。遅延して着陸の場合は、東京後泊の準備をする。交通の手配も同様。

②9月1日から開催される全日本ジュニア（U18）の対応

日本テニス協会への事前連絡により情報共有を行う。具体的対応については離陸直前まで遣り取りを行う。今回は無事に帰国できたためエントリーした選手全員参加することができた。

感想文の提出について

競技会終了後、各競技の代表の方は感想文の提出をお願いします。

期間中に感じしたことなご意見、ご感想をお寄せください。

今後の競技会の改善・充実のための資料として活用させていただきます。

なお、感想文や写真は日本スポーツ協会ホームページや広報資料などに掲載させていただく場合もあります。

<競技指導者（総監督、監督、コーチ）>

①総括・意見・今後の競技会に向けた提案（1200字程度）

競技面：準備・運営、競技会場、競技結果など

生活面：宿舎、食事など

その他：参加までの準備、日程全般、競技会を通じて得られたこと、

提案など

②競技結果と記録写真（競技・集合・交流の様子）

各競技10枚程度（集合写真、競技、交流の様子など）

※報告書へ掲載いたしますので、画質が荒くならないようご注意ください。

<選手>

感想文（600字程度／題名をつけること）

・競技会終了後、各競技代表の方々は感想文の提出をお願いします。

競技会期間中に感じた、忌憚のないご意見、ご感想をお寄せください。

今後の参考資料として活用させていただきます。

なお、感想文や写真は本会ホームページや広報資料などに掲載させていただく場合もありますのでご理解とご協力を宜しくお願いします。

<提出期限>

令和6年9月13日（金）

第32回日韓中ジュニア競技会テニス競技に参加して

男子監督 佐藤直樹



本競技会に参加するにあたり準備、企画をしていただいた日本スポーツ協会の皆様、日本テニス協会の関係者様、選手の顧問又は担当者の方々大変お世話になりました。さらに、今回の団長の全国高体連テニス専門部の黒岩部長、女子監督の兵藤副部長の協力のもと男子監督として参加させていただきました。感謝申し上げます。

初めて参加させていただき、11競技、約250名の参加者が一堂に集まり結団式を行いました。選手達はスケールの大きさや日本代表チームとしての自覚がさらに伺えました。韓国へ移動し、公式練習をした際に、今まで使用したことのないヘッドのボール、コートサーフェイスはハードコート、この組み合わせで非常にボールのバウンドが多く弾むので、選手が対応に苦戦していました。

開会式は韓国、中国、日本、開催県の選手団が約1000名参加しました。参加者の前で歓迎のアトラクションや各国の挨拶及び選手宣誓を行いました。今まで体験したことのない開会式で感激しました。

試合第1日目

韓国戦 シングルス 0-4 ダブルス 1-0

男子シングルス4名 ダブルス1ペアで戦いました。

シングルスは0-4 惜しい試合もありましたが、ボールの弾み具合に苦戦し対応が遅っていました。ダブルスは3年生の吉田・上田ペアで挑みました。1stセットは落としましたが、2ndセットは下半身が安定しブレることなくポイントを重ね取りファイナルセットは二人のコンビネーションが冴えわたり見事勝利した。

試合第2日目

中国戦 シングルス 0-4 ダブルス 0-1

今回の中国戦では中国の選手はストロークの安定感があり短いボールでは攻めてくる。日本チームの選手たちは守りに入ってしまい、攻めていく場面ではイージーミスを連発していたと考えたれる。もう少し心に余裕を持って試合展開をしていれば、チャンスがやってきたと思う。

ダブルス2年生 西山・中島ペア 1stセットは終始リード、相手のサービスをブレークすることができ勝利。2ndセットは自分達からのミスでサーブをキープす

ることができず落とした。ファイナルセットは2ndセットからの流れが強く、切り替えることができなくて落としました。サービスの自信がこの試合を大きく分けたと考えられる。

試合第3日目

地元韓国戦 シングルス 3-1 ダブルス 1-0

昨日までの反省を生かし、選手達は自分で対応することができていた。しかし、対応のできない選手には細かくアドバイスをすることによって対応することができた。ダブルスは終始リードをし、サービスゲームで40-40になつても強い意志を持って攻めきりゲームをものに繋々ことができた。相手の選手が怪我のため途中棄権をして試合は終了した。

今回は選手が初めての海外遠征で初めこそが緊張していたが、試合が進むことにより緊張が解けてきて良いショットが出てきていた。又、日本選手団のチームとしての行動や言動についても、規律正しく時間通り行動している姿を見てやはり日本代表という自覚を持って行動している様に思われた。

最後の交流会（閉会式）では、各国のそれぞれのチームが出し物をし、もの凄い盛り上がりの中、幕が閉じられた。

今回参加して、貴重な体験をさせていただきました。黒岩団長、兵藤女子監督、男子選手（吉田君、上田君、西山君、中島君）女子選手（中島さん、上野さん、上田さん、稻場さん）素晴らしい11人との1週間過ごすことができ、とても生きる糧になりました。

今後はこの経験を生かして、自校チームは勿論のこと、県代表、地域代表、全国の先生方に伝えて参りたいと思います。

ありがとうございました。

第32回日韓中ジュニア競技会テニス競技に参加して

橘学苑高等学校 上田頼

私は日韓中ジュニア交流競技会に硬式テニスの代表として参加しました。そこで、二つのことを学びました

一つ目は、日本、韓国、中国選手のプレースタイルの違いです。日本、韓国、中国でそれぞれプレースタイルの違いがありました。日本選手は比較的小柄な為、テンポで攻めていくプレーが多く、韓国選手は日本人より身体が大きく、パワーで攻めてくるプレー、中国選手は、一番身体が大きく、パワープレーで攻めてたり、ポジションを下げてカウンターで相手を崩したり、多彩なプレーでした。私は今まで国際大会に出たことがなかったので、今回初めて他国の選手と試合して、今後勝つ為には参考にしなければいけない点に気づけたのでとても良い経験が出来ました。

二つ目は、スポーツが他国の選手との交流を深めるということです。三ヵ国の言語が違う国でどうやって交流を深めればいいのか分からなく、不安に思っていましたが、スポーツを通じ、仲よくすることができ、一緒に夕食を食べたり、遊びに行ったりすることが出来ました。全ての試合が終わった後のフレンドシップ交流会では、他の競技の選手も他国の選手と交流を深めしていました。それだけでなく、他の競技の選手とも交流を深めることができました。他国の選手と交流することができたのは、それぞれの人がスポーツをしていて、この競技会に参加したことがきっかけになっているので、スポーツが人と人を繋いでいると感じ、自分がスポーツをやっていて良かったと改めて思いました。

初めての国際大会がこの日韓中ジュニア交流競技会で本当に良かったです。また同じような機会があれば、もう一度参加したいと思えた競技会でした。



日韓中ジュニア交流競技会を経験して

法政大学第二高等学校 吉田 琳

まず、はじめに「日韓中ジュニア交流競技会」に参加させていただきありがとうございました。また引率してくださいました黒岩先生、佐藤先生、兵藤先生、そしてメンバーの皆さんのおかげで楽しい時間を過ごせました。ありがとうございました。

私はテニスを海外でするのも外国人とプレーするのも初めてで、とても貴重な経験となりました。テニスだけではなく生活面でも日本に比べて気候も涼しく、過ごしやすく感じました。食生活の面では韓国の料理は辛いものが多いですが、冷麺やトッポギなど本場の韓国料理も食べることができて健康的に過ごすことが出来ました。

1試合目は韓国との対戦となり、シングルスとダブルスで出場し、シングルスは徐々にペースを掴みましたが相手のサーブからの攻撃やフォアのパワーに押されてしまい、自分からの展開を作れず2-6、5-7で負けていました。韓国の選手は体格が大きくテクニックもあり同じ高校生とは思えないほどでした。ダブルスでは上田君（橘学苑）と組みました。ダブルスを組むのは初めてでしたがジュニアの頃から多く試合をしているので、お互いの長所をよく知っていたため2人で伸び伸びとプレーできました。試合はサービスキープがお互いにできていたファイナルセットに入ったところで相手が隙を見せたので、そこを攻めきれて4-6、7-5、10-5で勝つことが出来ました。 2試合目の中国戦はシングルスのみ出場し、内容は韓国戦と同じ内容で相手のパワーに押され5-7、1-6で負けていました。しかし途中からサーブアンドボレーなどを混ぜて相手を揺さぶることができたのは今回の成長できた点であると思います。 3試合目は慶尚北道との試合で負けられない緊張感がありながらも、前の2試合の経験を活かして、より緩急や高低差を出して試合ができたので6-4、6-3のストレートで勝てました。ダブルスは上田くんと出場し、相手の4-1、RETで勝ちました。結果日本は3位で悔しい結果となりました。しかし負けた試合でも自分なりに工夫をしましたが惜しい試合でした。外国人のプレースタイルには日本人にない幅を実戦の中で感じることが出来ました。この経験を今後のテニス人生に活かして、練習に励んで行きたいと思います。ありがとうございました。



第32回 日・韓・中ジュニア交流競技会に参加して

西山大樹（麗澤瑞浪高等学校）

はじめに日韓中ジュニア交流競技会に参加させて頂きました。また日韓中ジュニア交流競技会を支えてくださった大会関係者の皆様、引率・監督をしてくださった黒岩先生、佐藤先生、兵頭先生ありがとうございました。

今回日本代表に選んで頂いたことはもちろん、海外遠征も初めてだったので楽しみな気持ちもありましたが不安な気持ちもありました。ですが監督の方々をはじめ、チームの皆さんのお陰で不安な気持ちを取り除くことができ、楽しく充実した時間を送ることができました。また、豪華な食事や試合会場までの送迎バスを用意してくださったり、お弁当や飲み物を提供してくださったり、試合の番刊をして頂いたりと、恵まれた環境で過ごすことができたこととても感謝しています。

今回の大会でたくさんのこと学ぶことができました。中国や韓国の選手は体格が良く、パワーが有るためラリーを短くし、ポイントを取りに来る場面もありましたがそれだけではなく、大事な場面では粘り強くプレーするなど、状況に応じてどういうプレーが最適なのかを判断する能力が高いと感じました。そういうプレーに対し、中々突破口を見つけることができず勝つことができませんでした。しかしその反省を活かして、慶尚北道の地元チームとの対戦では、1球1球のボールの出力を上げながらもミスをせず相手にとって攻めにくいボールを打つことができ勝つことができたので良かったです。もっと上の選手に勝っていくためにはボールの質だけでなく、体格やフットワークなどのフィジカルでの面が足りないという課題を見つけることができました。そして試合後にはフレンドシップ交流会が開かれ、試合を終えた選手と仲を深めることができました。そして各国の歌や踊りを見ることができ中国・韓国の文化に触れられとても充実した時間を過ごすことができました。

今回の大会で今まで味わうことのできなかった本当に貴重な経験をすることができました。これからテニスを続けていく上で必要なことや、テニスだけではなくこれから的人生においても大切なことを学ぶことができました。このような経験を活かしテニスももちろんですが、人としても成長できるように日々努力し頑張っていきます。ありがとうございました。



第32回 日・韓・中ジュニア交流競技会に参加して

岡山理科大学付属高等学校 中島璃人

はじめに、日・韓・中ジュニア交流競技会の関係者の皆様、スポンサーの皆様、引率して頂いた、黒岩先生 佐藤先生、兵藤先生、ありがとうございました。私は選考して頂きチャンスを与えてくださった事に感謝の気持ちを持って全力で頑張ろうと思いました。

競技会では、韓国の選手達のフィジカルの強さ、そしてその体格を活かしたサーブと力強いストロークに驚きました。その力強いプレイに対して何とか喰らい付いていこうとしましたが、セットを取るところまで至らず敗戦してしまいました。韓国の選手から1勝もすることできずとても悔しい思いをしました。体を大きくしパワーをつけることの大切さを痛感しました。

守備の面では中国人選手の粘り強さがとても勉強になり、自分に足りない守備を高めるといった課題も見つかり、フットワークの強化も課題となりました。韓国と中国の選手達との試合で今の自分の力も分かり試合を通じて課題が明確になりました。勉強にもなりましたが、悔しさの方が強く残る結果となりましたが、今後の糧になればと思います。

また、普段はライバルでもある選手達と一緒に団体戦を戦ったり、ダブルスを組んだりできた事はとても刺激的で楽しく勉強になりました。

試合後にはフレンドシップ交流会があり、韓国や中国の選手との交流を深める事ができました。特に韓国の選手はフレンドリーな選手が多く、コミュニケーション能力の高さを感じ大切さを知りました。一緒に、写真を撮ったり食事をしたり、楽しく会話ができた事はとても貴重な経験でした。英語が少ししか話せなかつたのでもっと英語を学んで韓国や中国の人と交流がしたかったです。英語を話す能力も大切だと強く感じました。

このような経験をさせて頂いた日本スポーツ協会、全国高体連テニスの皆さん、監督をして頂いた先生方、一緒に戦ってくれたチームのメンバーに本当に感謝しています。この度の様々な経験は今後の自分自身の人生に活きてくると思います。ありがとうございました。



第32回 日・韓・中ジュニア交流競技会に参加して

岡山学芸館高等学校 中島莉良

私は、この日韓中ジュニア交流競技会に参加することができ、たくさんの経験が積めたと思いました。

私は、海外に行ったことがなくこの交流会が初めての海外遠征となりました。日本以外の地でテニスをすることは初めてだし、文化も違うとなると不安なこともあつたけれど、一緒に行動してくださった監督の方々や、チーム日本として一緒に戦ってくれた選手たちが優しく支えてくださったおかげで良い1週間になったと思います。本当に感謝しかないです。この交流会の中で頼りない私にキャプテンという立場を与えてくださってより一層良い経験となりました。韓国の代表選手や、中国の代表選手は、私たち日本のチームより体が大きく体格の差に圧倒されました。だけど、私たちは負けじと必死に全力で戦いました。結果は自分たちの思うような内容にならなかつたけど、諦めずに戦つたので私自身、大きな成長に繋がつたと思います。日本の国旗を背負って戦うということを経験してみて、ものすごくプレッシャーの感じるものだと改めて感じることができました。日本代表としてオリンピックなどに出ている人達は、日本のために大きな重圧を抱えながらプレーをしているのだと思いました。このようなことは、自分が日本代表という経験をしないと感じることのできなかつたことだと思いました。私を日本代表に選んで下さつた方々に本当に感謝したいと思います。この経験からもっと自分を大きく成長させたいと思います。

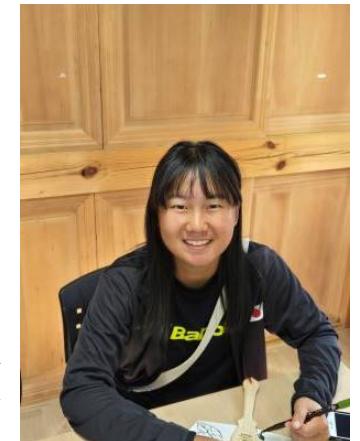


「日韓中に参加して」

山陽女学園高等部 上野 梨咲

今回の韓国遠征では私は初めて日本代表として試合をする経験をさせていただきました。JAPANという文字の入ったウェアを身に付けることは、嬉しい気持ちと同時に今までに感じたことのない緊張感を感じるものでした。

日中韓という国々は歴史的な背景から複雑な思いもありましたが、交流会では韓国代表の選手が日本の歌を楽しく歌つて踊ってくれ、気持ちがほぐれて心の距離がぐっと縮まつたような気がしました。試合では残念ながらあまり良い結果を残すことができませんでしたが、大会期間中も韓国チームの選手が昼食を一緒にとってくれることがあり、お互いに言葉を教え合うなど楽しい時間を過ごすことができました。テニスに取り組み真摯な姿勢や私たちに声を掛けて交流をはかってくれる優しさは同年代として尊敬でき、またいつか対戦できる時には私も成長して出会いたいと思いました。またこの遠征では同じチームで戦ってくれた日本選手たちと交流を深められたことも私にとって嬉しい経験でした。普段はライバルとしてしか戦うことのない他地域他校の選手とチームメイトとして一週間を過ごし、練習や試合することで刺激を受け、寝食を共にして仲良くなれて本当によかったです。私は今年度で高校を卒業し、ジュニアの大会からは引退しますが、この遠征で国内外の選手と対戦し交流して得たことを生かして新しいステージでがんばっていきたいと思います。



日韓の活動を終えて

相生学院高等学校 稲場らん

まず初めに日韓中のメンバーに選考して頂き、ありがとうございました。そして帶同してくださった関係者の皆様ありがとうございました。

海外の選手と試合をしてみて感じたことは、サーブがとても早くストロークにも1発がありラリーをしている時も常にプレッシャーを感じました。バックの高い打点で取らされることが多く跳ねてくるボールに対し、下がって打ってたら先に踏み込まれてしまったので少しポジションをあげてライジングでトライするようにしたら体格の大きい選手にも、負けずにラリーできるようになり、最終的にネットプレーにいきポイントを取れる機会を増やすことができていたのでこれからも続けてチャレンジしていくと思いました。体格が大きい選手とラリー戦になった時に先に焦って打ってしまう時があったのでもう少しパワーのあるボールに押し負けないようにフィジカル面も強くしていきたいです。

また、交流会などでは他国の選手とコミュニケーションをとったりとてもフレンドリーで韓国語などを沢山教えてくれたりしました。食事も一緒に食べたりして仲を深めることができとても楽しかったです。コミュニケーションを取れた時がすごく嬉しくて、通じない時もあってもやもやすることがありましたが、他の言語にももっと興味を持つことが出来ました。

文化探訪では工場に行ったり、キーホルダーを作ったり扇子に色を塗ったり韓国でしか出来ないことを体験できてとても楽しかったです。この経験を生かして、これから頑張っていきたいです。ありがとうございました。



日韓中交流会感想

大商学園高等学校 上田結生

まず初めに、日韓中交流競技会メンバーに選考していただきありがとうございました。

今回は韓国での海外遠征で、初めはとても緊張していました。メンバーに選んで頂き嬉しかったですが、みんなと仲良くなれるか、周りのレベルについていけるか、海外の選手と戦えるのかと不安がたくさんありながらも参加させていただきました。けれど集合するとメンバーみんながフレンドリーに接してくれて、すぐに不安はなくなり良い形でスタートし、韓国へ向かうことができました。韓国では、会場のコートコンディションに苦戦し、あまり納得のいくような練習ができず、少し心配な状態で試合に挑むことになりました。

初日の試合では自分より体格の大きい選手との試合で、すごく緊張した状態で入ってしまい、自分らしいプレーが出来ずにすごく悔しい思いをしました。2日目、3日目は反省を生かし思い切ってプレーしようと意識することができ、1日目に比べて自分で納得のいくプレーをすることができました。けれど競った場面で自分はポイントを取りにいけど守ってしまっていて、それに対して中国、韓国選手からはポイントを取りにいこうという強い姿勢が感じられすごく刺激を受けました。

全体としての結果は良くなく、自分も勝利にあまり貢献できませんでしたが、この機会でしか得ることのできない経験や、試合でのこれから課題など自分の為になるものを沢山得ることができました。また韓国選手とは言葉の壁もありながら積極的に交流することができとても良かったです。

最後に引率してくださった先生方、一緒に戦ったメンバーのみんな、大会関係者の皆様、本当にありがとうございました。この経験を生かしこれからも頑張っていきたいと思います。



第32回日・韓・中ジュニア交流競技会を経験して

全国高体連 テニス専門部
部長 黒岩睦雄

先ずは、この事業を企画立案、運営してくださった日本スポーツ協会の山田様をはじめ関係者の皆様、お忙しいにもかかわらず、ちょっとした疑問、些細な質問に丁寧に対応して下さり本当に感謝しています。日本テニス協会の丸山様・名高下様、テニス代表としての会議への出席そして伝達等、お陰様で無事に事務処理も進めることができました。そして、参加選手の学校の顧問や担当者の皆様、申込書の記入やパスポートに関することなど、データのやり取りでもたくさんの時間をいただきすることになったにもかかわらず、丁寧に対応していただき助かりました。他、たくさんの方々にご支援・ご助言、ご協力いただき無事にこの事業に参加できました、この場をお借りしまして感謝申し上げます。

今回は2度目の参加ということもあり概要はつかめていましたが、同じ韓国とはいえ前回の全羅南道と慶尚北道では様々な環境が大きく異なるものでした。前回は全競技が同じ宿舎ということで、集団生活の雰囲気が當時ありました。今回は配宿が競技別（バドミントンと同宿）であり、時間的にも空間的にも自分たちのペースを保つことが容易で試合とのオンとオフを付け易かったことはとても有り難いことでした。ホテルに関しても日本と変わりなく、生活面での苦労もありませんでした。徒歩圏内にスーパーマーケットやコンビニエンスストアがあったことも、買い物による気分転換が容易にできてとてもよい環境でした。海外で数日間滞在し大会に臨むことは日常の生活も含めての参加となります、この環境で過ごせたことでより大会に集中することができました、ありがとうございます。

さて、試合に目を向けると、先ず前日練習においてはコートサーフェイスとボールに慣れるのに精一杯でした。特にコートコンディションには苦労しました。ボールの回転により高く弾むことはすぐに分かりましたが、いざその対応となると適応への時間と頭の中での整理に苦労しました。ただそこは幾つもの激戦を勝ち抜いてきた経験の選手たち、能力と経験値の高さで練習の終わるころには順応しており、試合本番が楽しみでした。

試合1日目は韓国チームとの対戦でした。体格の違いからくるパワーの差は歴然で、



各試合とも前半は対応に苦慮する場面が多くみられました。ただ、試合が進むにつれて徐々に順応していき、後半は互角の戦いが出来ていました。しかし、序盤のリードを挽回するまでには至らず、落とした試合が多くなりました。

2日目は中国チームとの対戦でした。例年通り成人の体格を有する選手が多く、パワーとテクニックに優れた選手揃いでいた。その中でも前日の試合とこれまでの経験から蓄積したアイデアをスタートからフルに活用し、生き生きとしたプレーが随所に見られました。残念ながら結果には繋がりませんでしたが、この創意工夫は今後の彼らの飛躍の一助になると確信しました。

3日目は自身の体調不良のため関係する皆様に多大なるご心配とご迷惑をおかけし、大変申し訳ありませんでした。慶尚北道チームとの試合に係ることも出来ずとても残念です。報告では3日間の集大成の試合ができ、完勝のことでした。

ところで、帰国までの後半3日間は台風の動向に気を揉む日々となりました。テニス選手団の8名のほとんどが9月1日から始まる全国大会（日本テニス協会主催東京開催）に出席しており、主催者とのやり取りや各自が所属する学校の顧問との連絡が大変でした。ただ、こちらで出来ることは限られていたので、連絡を密に取り情報共有をすることに徹しました。結果としては無事に帰国出来て、選手たちも次の試合へ元気に移動していました。

前回もそうでしたが、今回も通訳の方々にはとてもお世話になりました。こちらの意を酌み、何事にも先回りで心配りをしていただけたため、選手団として試合に集中することができました。本当に感謝しております。

最後になりますが、テニスチーム11名は今回の全日程を通じて、日本代表としての自覚と責任を感じるなか、テニス競技の経験と実力向上だけではなく、海外での様々な方々との交流を通じて改めて日本の良さを実感するとともに、異文化を知り体験することの大切さを実感しました。帰国後はそれぞれの本拠地に戻り、日常に戻りますが、この一週間の経験が今後大きな飛躍の一助となることを確信しております。

本当にお世話になりました、そして、ありがとうございます。是非ともこの事業が継続され、より一層充実したものになることを願います。